

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	博士課程前期課程および博士課程後期課程では、全授業科目でシラバスが作成され、授業内容に適した授業形態や授業方法が採用されている。前期課程の講義科目ではテーマ別にテキストが採用され、教員の講義と学生との討論が中心となっている。演習科目では、学生の修士論文のテーマに応じた個別指導が中心となっている。後期課程の演習科目ではテーマ別の学生の報告と討論を中心に行われ、論文作成指導では学生の博士論文作成に向けての個別指導が中心となっている。研究指導と学位論文の作成においては研究指導計画に基づく指導を行っている。
4-3-2	・博士課程前期課程および博士課程後期課程では、全学共通の書式による WEB シラバスが作成され、社会に公表されている。 また『大学院履修要項』に全授業科目のシラバスと学位論文の作成の手引きが掲載されている。 ・教務・広報委員会はシラバスを定期的に検証し、授業内容・方法とシラバスの整合性を確保している。
4-3-3	授業の目標やねらいに対応した成績評価の方法と基準を明記し、学生に周知を図っている。学生には、前期・後期各 1 回の研究報告会で、論文作成中に最低 1 回は研究の進展状況を報告することが義務付けられている。研究報告会には研究科に在籍する学生全員と教員が出席し、質疑応答を行うことによって、指導教員以外の教員や学生の多様な考えを聞く機会をもうけ、論文作成につなげている。また、定期的にアンケート調査を実施し、単位認定制度の適切性と既修得単位の認定の適切性を確認している。
4-3-4	学生アンケートを行い、教育課程の見直しや授業改善に生かしている。教育成果に関する責任主体・組織、権限、手続きを明確にしている。また、研究科長と専攻主任が責任者として、教務・広報委員会と F D 委員会はアンケートなどを通して定期的な検証を行っている。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	学生アンケートに基づき、随時カリキュラム改定を行っている。

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	学生アンケートの内容を充実させ、定期的の実施し、授業改善に役立てる。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

『大学院履修要項』、学生アンケート

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	授業改善に一層役立てよう、学生アンケートの内容を充実させる。		→				
14年度 目標	新カリキュラム実施後の検証	新カリキュラムに対する学生アンケートを実施し、80%以上の満足度を達成する。	→				